



<議会報告① 代表質問>

来年度予算は長年の要求であった「加齢者難聴の補聴器補助」「小学校の給食無償化」など前進面はありましたが、問題点も多く、本会議や委員会

で、厳しく指摘し、改善を求めました。



<玉本なるみ議員が取り上げた内容>

- 物価高における生活支援策は、夏の終わり頃にマイナンバーカードとスマートフォンを持っている人のみに5000ポイントの地域デジタルポイントを給付するというやり方をやめ、全市民対象に現金給付を行うよう求めました。大阪府の寝屋川市では2月末に1世帯18,000円を給付しており、例に出して求めましたが、市長はマイナンバーカードの取得を進めると答弁しました。
●高すぎる国民健康保険料の引き下げを
●訪問介護ヘルパーの処遇改善を
●包括支援センターの人材確保へ支援強化を
●市民の命を守る自治体として、京都市立病院、京北病院の役割守れ
●赤字経営の原因はPFI方式によるもの。市立病院のあり方は病院関係者、住民等とともに検討を
●京北病院の施設改善、医師・看護師確保を
●子育て支援、保育士等の処遇改善を
●産後ケア事業の支援拡充を、兄弟への補助も必要。
●保育士等の人件費補助上限額は、物価上昇にふさわしい引き上げを
●1歳児3人に1人の保育士配置を (京都市は4対1に改善)

<議会報告② 予算委員会>

- ◆小学校給食の無償化を国が実施。京都市は、国の予算で足りない分を補てんして、保護者負担を無しにしますが、アレルギーで弁当持参の児童や不登校になっている児童は対象としないとしています。アレルギーや不登校は児童や保護者のせいではありません。国は自治体の判断で決めていいとしています。他の自治体ではすでに中学校給食やアレルギーの児童生徒の対応もしています。教育委員会に平等に対応するよう求めました。
◆教員は精神的な病気で休職をしている人が一番多い部署で、1年で90人近い教職員が休まざるを得ない状況にあります。原因に超過勤務や在宅への持ち帰り残業などがあると改善を求めました。持ち帰り残業があることは認めました。

つづやき:ギャンブル依存症から命を守る!「脳の病気」

K新聞の水曜日連載でギャンブル依存症の息子さんが自死したことを勇気を出して発言された記事が掲載され、大きな反響を呼んでいます。その直後にギャンブル依存症家族の会開催のセミナーにはたくさんの参加があり、私も参加して来ました。考える会代表の田中紀子さんのお話は衝撃的で、若い世代にギャンブル依存症が増えていること、「スポーツイベント」と言って、スポーツの勝ち負けに掛け金をかけるのが、日本では違法だけど、海外では合法として問題になっていること。かけるために借金をして、返済に困り、家族がお金の肩代わりをしてみたり、闇バイトに手を染めたり、追い詰められて自死を選ぶ若者が増えていると……。鉄則は家族が肩代わりをせず、脳の病気として、治療と回復施設で12のプログラムに取り組むことしか抜け出す道はないと。政治として、ギャンブル依存対策をしっかりとやってほしいと強く要望もありました。命の問題として取り組んでいきます。



山本ようこ、くらた共子、河合ようこ、西野さちこ、加藤あい、えもとかよこ、玉本なるみ、森田ゆみこ

で拡散しました。SNSなどで拡散しました。

全国各地で取り組まれた「女性の休日」アクションが今後も広がり、ジェンダー指数の高い国にしていきたいものです。昼休みに市会議員団の女性8人で、アクションバッチとミモザの手作りブローチをつけて、アピール写真を撮り、SNSなどで拡散しました。

女性の休日アクション

女性の休日」アクションが日本全国で、初めて3月6日〜8日に取り組まれました。

女性の休日」は、1975年10月

24日にアイスランドで、男女の賃格差や家事・労働の不平等を解消すべく、女性人口の約9割が仕事や家事を放棄して行ったストライキです。女性がいないと社会が回らないことを可視化し、後のジェンダー平等国への転換点となった歴史的ムーブメントです。アイスランドはジェンダー指数は148ヶ国中1位です。日本のジェンダー指数は118位と低いままで。政治参加や経済参加が低いことが要因で、女性の幹部職員が少ないことや男女の賃金格差が大きいことなどが問題です。



